

要約

株式：【米国やユーロ圏で政策金利が引き下げられたことを受けて、景気の先行きに対する明るい見方が広がって上昇】

序盤、米国で景気減速への懸念が高まって下落したものの、中盤以降は、物価が落ち着きつつあることが確認されるなかで、ユーロ圏と米国で相次いで政策金利が引き下げられたことや中国で景気支援策が打ち出されたことを受けて、景気の先行きに対する明るい見方が広がって上昇しました。

債券：【物価が落ち着きつつあることが確認されるなかで、米国とユーロ圏で政策金利が引き下げられたことを受けて上昇】

中盤まで、米国やユーロ圏で景気の先行きへの懸念が高まるなかで政策金利の引き下げ観測が強まって上昇し、その後、米国とユーロ圏で相次いで政策金利が引き下げられたことを受けて堅調に推移しました。日本国債は、政策金利の引き上げ観測が後退したことを背景に上昇しました。

為替：【より大幅な政策金利の引き下げが行われたドルがユーロに対して下落。円は上昇し、対ドル対ユーロで円高】

政策金利の引き下げ観測が強まったドルとユーロはともに軟調に推移し、今月の会合で政策金利がより大きく引き下げられたドルがユーロに対して下落しました。円は、政策金利の引き上げが意識されるなかでドルやユーロとの金利差が縮小していくとの見方が強まって上昇しました。

株式市場の動き

世界の株式

世界の株式市場は、英国、スイス、日本、韓国などを除いて上昇しました。序盤、米 ISM 製造業景況指数が予想を下回ったことを受けて、米国で景気減速への懸念が高まって下落しました。その後は、米雇用統計で非農業部門の雇用者数の伸びが予想を下回ったことを受けて、米国で景気減速への懸念が一段と高まって下落しました。

中盤にかけては、落ち着きを取り戻して上昇し、中盤は米国で物価が落ち着きつつあるとの見方が維持されたほか、欧州中央銀行（ECB）理事会で、予想通り政策金利が 0.25% 引き下げられたことを受けて、安心感が広がって上昇しました。

終盤にかけては、米国で景気の底堅さが確認されるなかで、米連邦公開市場委員会（FOMC）において市場で期待されていた通り政策金利が 0.50% 引き下げられたことを受けて、安心感が広がって上昇しました。

終盤は、中国当局が景気支援策を打ち出したことを受けて中国が上昇し、中国景気の好転により恩恵を受けることが期待された欧州も上昇しました。

9 月度の商品価格の概況

	終値	騰落率
NY 原油先物（WTI/直近限月）/1 バレル	68.17	-7.31%
NY 金先物（中心限月）/1 トロイオンス	2659.4	+5.21%

ECB 理事会では 0.25% の利下げが、FOMC では 0.50% の利下げが行われたものの、ラガルド ECB 総裁とパウエル FRB 議長はともに会見で、今後についてはデータに基づいて決定すると述べ、慎重に利下げを進める姿勢を示しました。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

米国株式

米国の株式市場は、上昇しました。

序盤、ISM 製造業景況指数が予想を下回ったことを受けて、景気減速への懸念が高まって下落しました。その後は、労働省の調査で求人件数の減少が示されたほか、雇用統計で非農業部門の雇用者数の伸びが予想を下回ったことを受けて、景気減速への懸念が一段と高まって下落しました。

中盤にかけては、落ち着きを取り戻して上昇し、中盤には消費者物価指数 (CPI) や生産者物価指数 (PPI) の前年比の上昇幅が予想通りであったことを受けて、物価が落ち着きつつあるとの見方が維持されて上昇しました。

終盤にかけては、小売売上高が前月比で予想外に上昇して景気の底堅さが確認されるなかで、連邦公開市場委員会 (FOMC) において市場で期待されていた通り政策金利が 0.50% 引き下げられたことを受けて、景気の先行きへの楽観的な見方が広がって上昇しました。

終盤は、コンファンスボードの消費者信頼感指数が大きく低下したことを受けて、景気減速懸念が高まったものの、政策金利の引き下げ観測が強まっていることを背景に堅調に推移しました。

9 月度の主要指数の概況

	騰落率
ダウ・ジョーンズ工業株価平均 (米ドル)	+1.85%
S&P500 (米ドル)	+2.02%
ナスダック総合指数 (米ドル)	+2.68%

9 月 20 日終了週の 30 年物固定金利型住宅ローンの契約金利が 6.13% と、8 週連続で低下し 2 年ぶりの低水準となったことを受けて、住宅購入に向けたローン申請や住宅ローンの借り換えの動きが活発になっています。

欧州株式

欧州の株式市場は、ドイツが上昇した一方で英国やスイスが下落しました。

序盤、ユーロ圏の購買担当者景気指数 (PMI) が確定値で下方修正されたことなどを背景に景気の弱さが意識されるなかで、米国で景気減速懸念が高まったことを受けて下落しました。

中盤は、欧州中央銀行 (ECB) 理事会で、予想通り政策金利が 0.25% 引き下げられたことを受けて、安心感が広がって上昇しました。

終盤にかけては、米国で景気の底堅さが確認されるなかで、米連邦公開市場委員会 (FOMC) において市場で期待されていた通り政策金利が 0.50% 引き下げられたことを受けて、安心感が広がって上昇しました。

終盤は、ユーロ圏の購買担当者景気指数 (PMI) が製造業、サービス業でともに低下し、景気低迷の長期化への懸念が高まったものの、政策金利の引き下げ観測が強まったことを受けて、堅調に推移しました。その後は、中国当局が景気支援策を打ち出したことを受けて、中国景気の好転により恩恵を受けることが期待される企業を中心に上昇しました。

9 月度の主要指数の概況

	騰落率
独 DAX 指数 (ユーロ)	+2.21%
仏 CAC 指数 (ユーロ)	+0.06%
英 FT100 指数 (英ポンド)	-1.67%
スイス SMI 指数 (スイスフラン)	-2.15%
MSCI Europe 指数 (ユーロ)	-0.50%

9 月のユーロ圏総合 PMI は、ドイツが予想以上に悪化したほか、五輪が終了したフランスが 8 か月ぶりの低水準となったことを受けて、2 月以降で初めて 50 を下回り、景気低迷の長期化への懸念が高まっています。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書 (交付目論見書) に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

9 月度の市場動向について

日本株式

国内の株式市場は、下落しました。

序盤、植田日銀総裁が、経済や物価の改善が進めば、政策金利の引き上げを行う考えをあらためて示すなかで、米国で政策金利の引き下げ観測が強まり、為替が円高となったことを受けて下落しました。その後は、米国で労働市場の落ち込みが懸念され、リスクを回避する動きが強まるなかで、さらに円高が進行したことを受けて一段と下落しました。

中盤にかけては、4-6 月期の国内総生産（GDP）が確報値で下方修正され、景気の先行きへの楽観的な見方が後退して下落基調となりました。中盤は、米国や欧州で政策金利の引き下げ観測が強まった一方で、国内で政策金利の引き上げが意識されて、為替が円高となったことを背景に、軟調に推移しました。

終盤にかけては、米連邦公開市場委員会（FOMC）において市場で期待されていた通り政策金利が 0.50%引き下げられたことを受けて、リスク選好が強まるなかで、為替が円安となったことを背景に上昇しました。

終盤は、日本銀行の金融政策決定会合後の会見で植田総裁が政策金利の引き上げを急がない姿勢を示したことを受けて、為替が円安となるなかで堅調に推移しました。その後は、自由民主党総裁選挙で金融緩和の縮小に否定的な見解を示していた高市氏が優勢となったことを受けて、円安が進行するとともに上昇する局面はあったものの、石破氏が総裁に選出されたことを受けて下落しました。

9 月度の主要指数の概況

	騰落率
日経平均株価指数（円）	-1.88%
TOPIX[東証株価指数]	-2.46%
MSCI Japan 指数（円）	-3.08%

8 月の全国消費者物価指数の生鮮食品を除くコア指数は、エネルギー価格の高止まりに加えて、家庭用耐久財の上昇やコメ不足などの影響で、4 か月連続で前年比の上昇幅が拡大し、29 か月連続で 2%を上回りました。

太平洋株式（日本を除く）

太平洋地域（日本を除く）の株式市場は、上昇しました。

序盤、中国の民間調査で住宅市場の低迷があらためて示され、景気低迷の長期化懸念が強まったほか、オーストラリアの 4-6 月期の国内総生産（GDP）で家計支出の落ち込みが確認されるなかで、米国で景気減速懸念が高まったことを受けて下落しました。その後は、米国で労働市場の落ち込みが懸念され、リスクを回避する動きが強まるなかで一段と下落しました。

中盤にかけては、中国の貿易統計で輸入の伸びが予想を下回ったことを受けて、中国の内需の弱さが懸念されて軟調に推移しました。中盤は、米国で物価が落ち着きつつあるとの見方が維持されたほか、欧州中央銀行（ECB）が予想通り政策金利の引き下げを行ったことを受けて、安心感が広がって上昇しました。

終盤にかけては、米連邦公開市場委員会（FOMC）において市場で期待されていた通り政策金利が 0.50%引き下げられ、リスク選好が強まったことを受けて上昇しました。

終盤は、オーストラリア準備銀行（中央銀行）が政策金利を高い水準で維持する方針をあらためて示したことを受けてオーストラリアが軟調に推移した一方で、中国当局が幅広い金融緩和策と不動産市場や株式市場の支援策を打ち出したことを受けて、香港が上昇しました。

9 月度の主要指数の概況

	騰落率
MSCI Pacific ex-Japan 指数（米ドル）	+6.62%
S&P/ASX200 指数（豪ドル）	+2.20%
香港ハンセン指数（香港ドル）	+17.48%
シンガポール ST 指数（シンガポールドル）	+4.13%

オーストラリア準備銀行（中央銀行）は政策金利を予想通り据え置きました。ブロック総裁は会見で、理事会は利上げについて明確には検討しなかった一方で、目先の利下げも想定していないと述べました。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

新興国株式

新興国の株式市場は、韓国やブラジルなどが下落した一方で中国やインドなどが上昇しました。

序盤、中国の民間調査で住宅市場の低迷があらためて示され、景気低迷の長期化懸念が強まったほか、人工知能（AI）投資を巡る楽観的な見方が後退するなかで、米国で景気減速懸念が高まったことを受けて下落しました。その後は、米国で労働市場の落ち込みが懸念され、リスクを回避する動きが強まるなかで一段と下落しました。

中盤は、中国の貿易統計で輸入の伸びが予想を下回ったことを受けて、中国の内需の弱さが懸念されて中国が軟調に推移しましたが、米国で物価が落ち着きつつあるとの見方が維持されたほか、欧州中央銀行（ECB）が予想通り政策金利の引き下げを行ったことを受けて、安心感が広がって全体では上昇しました。

終盤にかけては、米連邦公開市場委員会（FOMC）において市場で期待されていた通り政策金利が 0.50% 引き下げられ、リスク選好が強まったことを受けて上昇しました。

終盤は、中国当局が幅広い金融緩和策と不動産市場や株式市場の支援策を打ち出したことを受けて中国が上昇し、全体でも上昇しました。

9 月度の主要指数の概況

	騰落率
MSCI Emerging 指数（米ドル）	+6.45%
ブラジルボベスパ指数（ブラジルリアル）	-3.08%
中国上海総合指数（中国元）	+17.39%
韓国総合株価指数（韓国ウォン）	-3.03%
台湾加権指数（台湾ドル）	-0.20%
S&P/BSE SENSEX 指数（インドルピー）	+2.35%
南アフリカ全株指数（南アフリカランド）	+3.34%

中国では、不動産市場の低迷や雇用環境の悪化を受けて、都市部を中心に消費が低迷し、経済活動が力強さを欠いていることから、当局は景気を下支えするために幅広い金融緩和策と不動産市場や株式市場の支援策を打ち出しました。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

債券市場の動き

米国債券市場（国債）

米国の債券市場は、上昇しました（金利は低下）。

序盤、ISM 製造業景況指数が予想を下回ったことを受けて、景気減速懸念が高まるとともに、政策金利の引き下げ観測が強まって上昇しました。その後は、労働省の調査で求人件数の減少が示されたほか、雇用統計で非農業部門の雇用者数の伸びが予想を下回ったことを受けて、政策金利の引き下げ観測が一段と強まって上昇しました。

中盤にかけては、政策金利の引き下げ観測が強まったことを背景に上昇基調が続きしました。中盤には、消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）の前年比の上昇幅が予想通りであったことを受けて、物価が落ち着きつつあるとの見方が維持されて堅調に推移しました。

終盤にかけては、小売売上高が前月比で予想外に上昇して景気の底堅さが確認されるなかで軟調に推移しました。その後は、連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利が 0.50% 引き下げられたものの、パウエル連邦準備制度理事会（FRB）議長が会見で、大幅な政策金利の引き下げの継続に否定的な見解を示したことを受けて、下落しました。

終盤は、景気減速懸念が高まるとともに、政策金利の引き下げ観測が強まったことを受けて堅調に推移しました。

9 月度の長期金利の状況

	利回り	前月比
米 10 年国債	3.781% 付近	-0.123%

欧州債券市場（国債）

ユーロ圏の債券市場は、上昇しました（金利は低下）。

序盤、ユーロ圏で景気の弱さが意識されるなかで、米国で政策金利の引き下げ観測が強まったことを背景に、ユーロ圏でも政策金利の引き下げ観測が強まって上昇しました。

中盤にかけては、政策金利の引き下げ観測が強まったことを背景に上昇しました。中盤には、欧州中央銀行（ECB）が、予想通り政策金利を 0.25% 引き下げたものの、ラガルド総裁が会見で次回会合以降の政策金利の引き下げについては、データ次第と述べたことを受けて下落しました。

終盤にかけては、米国で政策金利の引き下げ期待が後退したことを受けて、米国債が下落基調となったことを背景に軟調に推移しました。

終盤は、景気減速懸念が高まるとともに、政策金利の引き下げ観測が強まったことを受けて堅調に推移しました。

9 月度の長期金利の状況

	利回り	前月比
独 10 年国債	2.123% 付近	-0.176%

日本債券市場（国債）

日本の債券市場は、上昇しました（金利は低下）。

序盤、植田日銀総裁が、経済や物価の改善が進めば、政策金利の引き上げを行う考えをあらためて示したことなどを背景に軟調に推移しました。その後は、米国で政策金利の引き下げ観測が強まり、米国債が上昇したことを受けて上昇しました。

中盤は、政策金利の引き上げが意識されて下落する局面はあったものの、米国や欧州の債券市場が上昇したことを背景に堅調に推移しました。

終盤にかけては、米国で政策金利の引き下げ期待が後退したことを受けて、米国債が下落基調となったことを背景に軟調に推移しました。

終盤は、日本銀行の金融政策決定会合後の会見で植田総裁が、政策金利の引き上げを急がない姿勢を示すなかで、米国や欧州の債券市場が上昇したことを背景に上昇しました。

9 月度の長期金利の状況

	利回り	前月比
日 10 年国債	0.861% 付近	-0.037%

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

為替市場の動き

ドル・円

円はドルに対して、上昇しました。

序盤、米 ISM 製造業景況指数が予想を下回ったことを受けて、米国で景気減速懸念が高まるとともに、政策金利の引き下げ観測が強まってドルが下落する一方で、植田日銀総裁が、経済や物価の改善が進めば、政策金利の引き上げを行う考えをあらためて示したことを受けて円が上昇し、円高ドル安となりました。

その後は、米雇用統計で非農業部門の雇用者数の伸びが予想を下回ったことを受けて、ドルと円の金利差が縮小していくとの見方が強まって円が上昇し、円高ドル安となりました。

中盤にかけては、政策金利の引き下げ観測が行き過ぎとの見方が広がったドルと、政策金利の引き上げが意識された円がともに堅調に推移し、円は対ドルで方向感のない展開となりました。中盤は、米国で消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）の前年比の上昇幅が予想通りであったことを受けて、物価が落ち着きつつあるとの見方が維持されたことを背景にドルが軟調に推移する一方で、ドルとの金利差縮小観測が強まった円が上昇し、円高ドル安となりました。

終盤にかけては、連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利が 0.50%引き下げられたものの、パウエル連邦準備制度理事会（FRB）議長が会見で、大幅な政策金利の引き下げの継続に否定的な見解を示したことを受けてドルが堅調に推移し、リスク選好が強まったことを背景に円が下落し、円安ドル高となりました。

終盤は、日本銀行の金融政策決定会合後の会見で植田総裁が、政策金利の引き上げを急がない姿勢を示したことを受けて円が下落し、円安ドル高となりました。その後は、日本の自由民主党総裁選挙で金融緩和の縮小に否定的な見解を示していた高市氏が優勢となったことを受けて、円が下落して円安ドル高となる局面はあったものの、石破氏が総裁に選出されたことを受けて、円が上昇し円高ドル安となりました。

ユーロ・円

円はユーロに対して、上昇しました。

序盤、米国で政策金利の引き下げ観測が強まったことを受けて、ユーロ圏でも政策金利の引き下げが意識されるなかで、植田日銀総裁が、経済や物価の改善が進めば、政策金利の引き上げを行う考えをあらためて示したことを受けて円が上昇し、円高ユーロ安となりました。その後は、米雇用統計で非農業部門の雇用者数の伸びが予想を下回ったことを受けて、ドルと円の金利差が縮小していくとの見方が強まって円が上昇し、円高ユーロ安となりました。

中盤にかけては、欧州中央銀行（ECB）理事会での政策金利の引き下げが意識されてユーロが下落した一方で、政策金利の引き上げが意識された円が上昇し、円高ユーロ安となりました。中盤は、ECB 理事会で予想通り政策金利の引き下げが行われたことを受けて、ユーロとの金利差の縮小観測が強まった円が上昇し、円高ユーロ安となりました。

終盤にかけては、連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利が 0.50%引き下げられたことを受けて、リスク選好が強まったことを背景に円が下落し、円安ユーロ高となりました。

終盤は、日本銀行の金融政策決定会合後の会見で、植田総裁が政策金利の引き上げを急がない姿勢を示したことを受けて円が下落し、円安ユーロ高となりました。その後は、日本の自由民主党総裁選挙で金融緩和の縮小に否定的な見解を示していた高市氏が優勢となったことを受けて、円が下落して円安ユーロ高となる局面はあったものの、石破氏が総裁に選出されたことを受けて、円が上昇し円高ユーロ安となりました。

9 月度の概況

	レート*	月間騰落率
ドル（円）	143.63	-1.74%（円高）
ユーロ（円）	159.94	-0.96%（円高）
ユーロ（ドル）	1.1135	+0.79%（ユーロ高）

*レートは月末の米国東部標準時間 17 時のものです。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

「セゾン・グローバルバランスファンド」
運用概況（2024 年 9 月 30 日現在）

長期投資家の皆さまへ

今月の当ファンドの基準価額は、為替が対ドル対ユーロで円高となったものの、投資先ファンドが全て上昇したことを受けて上昇しました。

金融市場において、価格の動きは需要と供給の関係で決まり、実際に起きていることと短期的な価格の動きの間には明確な原因と結果の関係が存在しないことから、時には行き過ぎが生じることがあります。これは、どんなものに投資しても状況によっては損失を被る可能性があることを意味し、幅広く分散投資を行うこと、長期間投資を行うこと、積み立て投資を行うことは、全て偶然による損失の可能性を軽減することにつながります。

もちろん、このような方法で投資を行うことで、短い期間で大きな利益を得る可能性を諦めることにはなりますが、一般的な状況では、リスクがある資産に投資することで、安全資産を保有した場合よりも高いリターンを得ることが期待できるので、長期の資産形成を目的とした投資の場合は、偶然の影響を軽減することが望ましいと考えています。

当ファンドでは引き続き、将来への予測に依存することなく、幅広く分散投資を行うことにより、リスクを抑えながら、皆さまの長期の資産形成に貢献できるよう努めてまいります。

ポートフォリオマネージャー 瀬下 哲雄

今月の運用状況

今月は、積み立てなどのご購入により皆さまからお預かりした資金を利用して、定められた投資比率に従って債券ファンドを購入しました。

図1 9 月度の投資先ファンド価格の変動による影響
※月末の投資比率に基づく概算値/投資先ファンド通貨建て

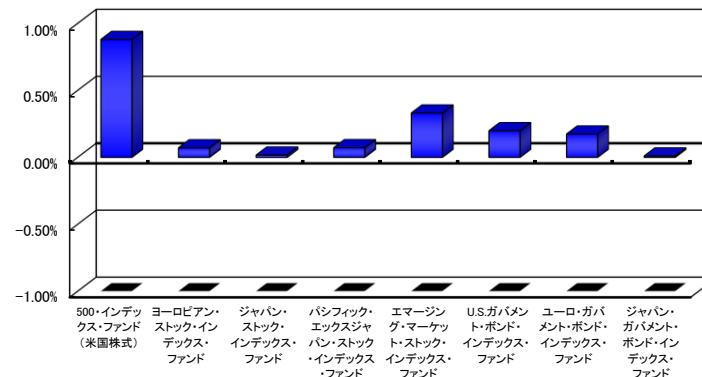
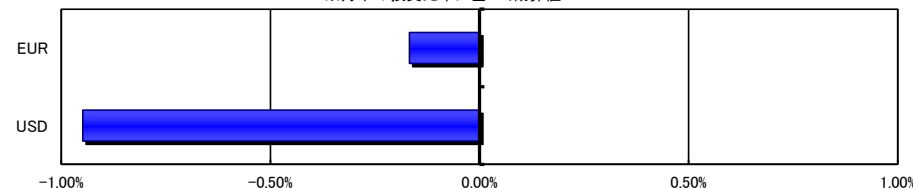


図2 9 月度の為替変動による影響
※月末の投資比率に基づく概算値



※上記の表は、投資家の皆様へファンド基準価額の変動要因を簡潔に説明するため2024年9月30日現在の投資比率に基づき、ファンド及び為替レートの変動の影響を图示したものであり、実際の影響度合いとは異なります。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

I：ファンドの基準価額と純資産総額の推移

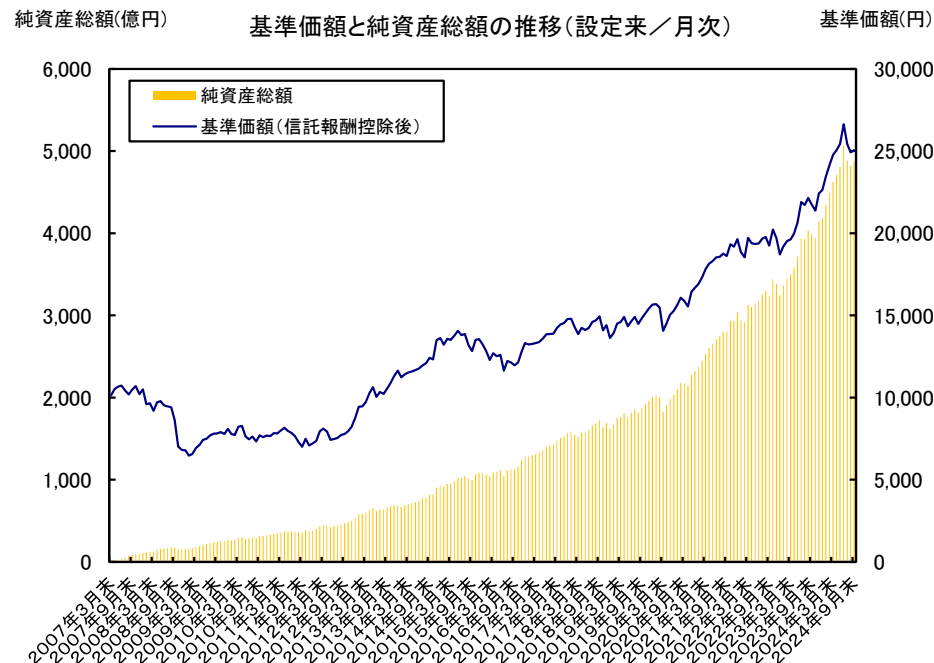
2024 年 9 月 30 日現在の基準価額と純資産総額及び騰落率

基準価額	25,058円
純資産総額	4871.3億円
設定来騰落率	150.58%
過去1ヶ月間の騰落率	0.55%
過去6ヶ月間の騰落率	1.21%
過去1年間の騰落率	15.21%
過去3年間の騰落率	34.58%
過去5年間の騰落率	68.90%
過去10年間の騰落率	101.84%
過去15年間の騰落率	220.43%

*基準価額は信託報酬控除後の数値です。騰落率は小数点第 3 位を四捨五入しています。

基準価額のハイライト（設定から 2024 年 9 月 30 日まで）

	基準価額	日付
設定来安値	6,275	2009年1月26日
設定来高値	27,128	2024年7月11日



当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

セゾン・グローバルバランスファンド 9 月度運用レポート

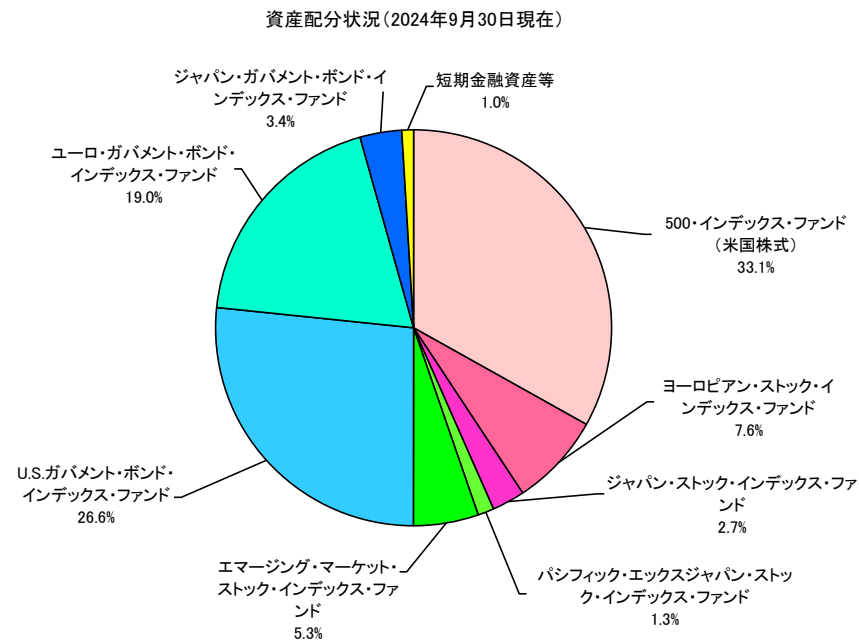
販売用資料
2024.10.3

Ⅱ：ファンド資産の状況（2024年9月30日現在）

投資先ファンド別資産配分状況

ファンド名称	比率
500・インデックス・ファンド（米国株式）	33.1%
ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	7.6%
ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	2.7%
パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	1.3%
エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	5.3%
U.S. ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	26.6%
ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	19.0%
ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	3.4%
短期金融資産等	1.0%
合計	100.0%

※資産配分状況は小数点第2位を四捨五入している為、合計が100%にならない場合があります。



当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

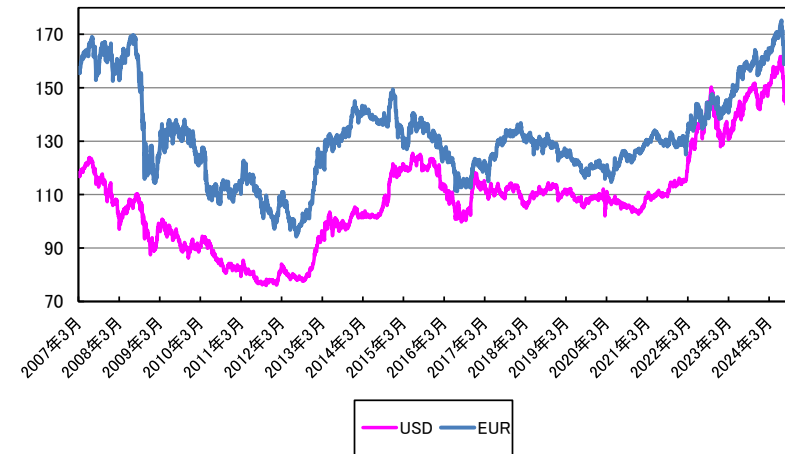
Ⅲ：為替レートの推移

設定時からの為替レート

日付	円／ドル	円／ユーロ
2007年3月15日	117.27	155.09
2007年12月28日	114.15	166.66
2008年12月30日	91.03	127.96
2009年12月30日	92.10	132.00
2010年12月30日	81.49	107.90
2011年12月30日	77.74	100.71
2012年12月28日	86.58	114.71
2013年12月30日	105.39	145.05
2014年12月30日	120.55	146.54
2015年12月30日	120.61	131.77
2016年12月30日	116.49	122.70
2017年12月29日	113.00	134.94
2018年12月28日	111.00	127.00
2019年12月30日	109.56	122.54
2020年12月30日	103.50	126.95
2021年12月30日	115.02	130.51
2022年12月30日	132.70	141.47
2023年12月29日	141.83	157.12
2024年1月31日	147.55	159.97
2024年2月29日	150.67	163.25
2024年3月29日	151.41	163.24
2024年4月30日	156.90	168.12
2024年5月31日	156.74	169.78
2024年6月28日	161.07	172.33
2024年7月31日	152.44	164.89
2024年8月30日	144.80	160.44
2024年9月30日	142.73	159.43
変化率（設定来）	21.71%	2.80%
変化率（9月度）	-1.43%	-0.63%

※変化率はプラスが円安、マイナスが円高。小数点第3位を四捨五入

2007年3月15日から2024年9月30日までの為替レートの推移



※投資信託協会発表の評価用為替レートを使用して作成しています。

当ファンドは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

IV：投資先ファンドの価格（円貨建て）

① 主に株式へ投資するファンドの値

ファンドへの組入れ開始日の値を 100 とした場合の 2024 年 9 月 30 日現在の値

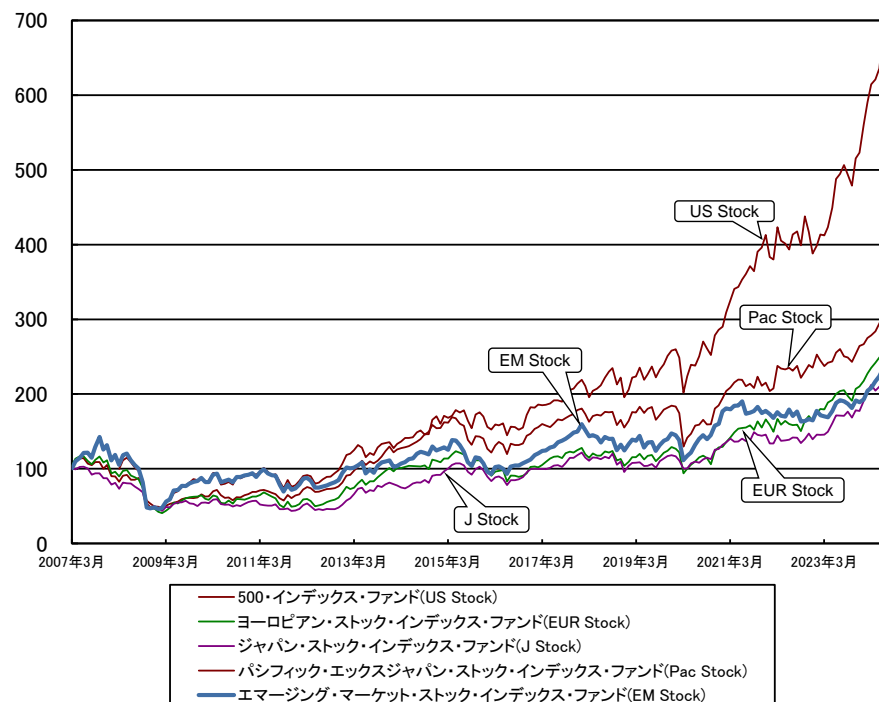
500・インデックス・ファンド（米国株式）	636.8
ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド	240.3
ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	206.6
パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	301.7
エマーキング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	222.7

2024 年 8 月 30 日の値を 100 とした場合の 2024 年 9 月 30 日現在の値（9 月の動き）

500・インデックス・ファンド（米国株式）	101.2
ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド	100.3
ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	100.6
パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	104.0
エマーキング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	104.7

※指数は小数点以下第 2 位を四捨五入

組入れ開始以来の投資先株式ファンドの値の推移（円貨建て）



エマーキング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド、ジャパン・ストック・インデックス・ファンドは 2007 年 3 月 23 日、パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンドは 2008 年 3 月 14 日、それ以外のファンドは 2007 年 3 月 19 日の値を 100 として算出しています。（500・インデックス・ファンド（米国株式）の値は 2018 年 10 月 17 日までは U.S.500・ストック・インデックス・ファンドの値、2021 年 3 月 12 日まではインスティテューショナル・インデックス・ファンドの値です。なお、500・インデックス・ファンド、インスティテューショナル・インデックス・ファンドの値は、税引き後の分配金を全て再投資したものととして算出しています。）価格が外貨建てのファンドは、投資信託協会発表の評価用為替レートを利用して円に換算し、指数を算出しています。（日付は全て当ファンドでの評価日付です。）

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

② 主に債券へ投資するファンドの値

ファンドへの組入れ開始日の値を 100 とした場合の 2024 年 9 月 30 日現在の値

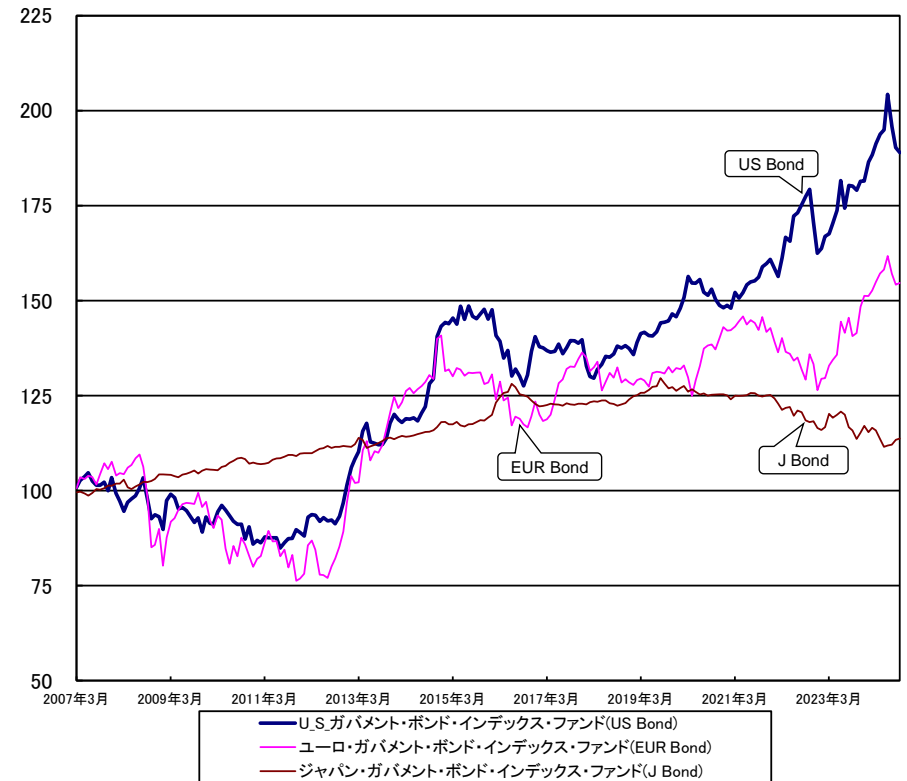
U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	189.0
ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	154.6
ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	113.7

2024 年 8 月 30 日の値を 100 とした場合の 2024 年 9 月 30 日現在の値（9 月の動き）

U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	99.3
ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	100.3
ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	100.3

※指数は小数点以下第 2 位を四捨五入

組入れ開始以来の投資先債券ファンドの値の推移（円貨建て）



ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンドは 2007 年 3 月 23 日、それ以外のファンドは 2007 年 3 月 19 日の値を 100 として算出しています。価格が外貨建てのファンドは、投資信託協会発表の評価用為替レートを利用して円に換算し、指数を算出しています。（日付は全て当ファンドでの評価日付です。）

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

セゾン・グローバルバランスファンド 9 月度運用レポート

 販売用資料
2024.10.3

投資先インデックス運用ファンドの状況

各比率は、特に指定がない場合、純資産総額に対する比率を表します。また、小数点第2位を四捨五入している為、合計が100%にならない場合があります。

バンガード・500・インデックス・ファンド (ETF シェア・クラス)

9 月度の騰落率（ドル建て）は+2.2%でした。6 月末時点の組入上位 10 銘柄と組入比率、および業種別投資比率は下記の通りです。また、組入銘柄数は 504 銘柄です。（当ファンドの情報は四半期ごとに更新します）

組入上位 10 銘柄と投資比率（上位 10 銘柄の合計：37.0%）

	銘柄名	業種	組入比率
1	Microsoft Corp.	情報技術	7.2%
2	NVIDIA Corp.	情報技術	6.6%
3	Apple Inc.	情報技術	6.6%
4	Alphabet Inc.	コミュニケーション・サービス	4.3%
5	Amazon.com Inc.	一般消費財・サービス	3.9%
6	Meta Platforms Inc.	コミュニケーション・サービス	2.4%
7	Berkshire Hathaway Inc.	金融	1.6%
8	Eli Lilly & Co.	ヘルスケア	1.6%
9	Broadcom Inc.	情報技術	1.5%
10	JPMorgan Chase & Co.	金融	1.3%

業種別投資比率

	業種	組入比率
1	情報技術	32.5%
2	金融	12.4%
3	ヘルスケア	11.7%
4	一般消費財・サービス	10.0%
5	コミュニケーション・サービス	9.3%
6	資本財・サービス	8.1%
7	生活必需品	5.8%
8	エネルギー	3.6%
9	公益事業	2.3%
10	素材	2.2%
11	不動産	2.1%

*騰落率は、分配金を全て再投資したものととして算出しています。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド
(インスティテューショナルプラスシェア・クラス)

9 月度の騰落率（ユーロ建て）は-0.4%でした。8 月末時点の組入上位 10 銘柄と組入比率、および業種別投資比率は下記の通りです。また、組入銘柄数は 423 銘柄です。

組入上位 10 銘柄と投資比率（上位 10 銘柄の合計：23.1%）

	銘柄名	業種	組入比率
1	Novo Nordisk A/S	ヘルスケア	3.9%
2	ASML Holding NV	情報技術	3.1%
3	Nestle SA	生活必需品	2.5%
4	AstraZeneca plc	ヘルスケア	2.3%
5	Roche Holding AG	ヘルスケア	2.2%
6	Novartis AG	ヘルスケア	2.0%
7	SAP SE	情報技術	2.0%
8	Shell plc	エネルギー	1.9%
9	LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SE	一般消費財・サービス	1.8%
10	HSBC Holdings plc	金融	1.4%

業種別投資比率

	業種	組入比率
1	金融	18.8%
2	ヘルスケア	17.0%
3	資本財・サービス	16.5%
4	生活必需品	10.8%
5	一般消費財・サービス	10.0%
6	情報技術	7.6%
7	素材	6.2%
8	エネルギー	5.1%
9	公益事業	4.0%
10	コミュニケーション・サービス	3.1%
11	不動産	0.9%

バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド
(インスティテューショナルプラスシェア・クラス)

9 月度の騰落率（円建て）は-2.3%でした。8 月末時点の組入上位 10 銘柄と組入比率、および業種別投資比率は下記の通りです。また、組入銘柄数は 203 銘柄です。

組入上位 10 銘柄と投資比率（上位 10 銘柄の合計：26.2%）

	銘柄名	業種	組入比率
1	Toyota Motor Corp.	一般消費財・サービス	4.9%
2	Sony Group Corp.	一般消費財・サービス	3.0%
3	Mitsubishi UFJ Financial Group Inc.	金融	2.9%
4	Hitachi Ltd.	資本財・サービス	2.8%
5	Keyence Corp.	情報技術	2.3%
6	Recruit Holdings Co. Ltd.	資本財・サービス	2.3%
7	Tokyo Electron Ltd.	情報技術	2.1%
8	Sumitomo Mitsui Financial Group Inc.	金融	2.0%
9	Shin-Etsu Chemical Co. Ltd.	素材	2.0%
10	Daiichi Sankyo Co. Ltd.	ヘルスケア	1.9%

業種別投資比率

	業種	組入比率
1	資本財・サービス	22.9%
2	一般消費財・サービス	17.9%
3	情報技術	14.9%
4	金融	14.2%
5	ヘルスケア	8.7%
6	コミュニケーション・サービス	7.0%
7	生活必需品	5.4%
8	素材	4.3%
9	不動産	2.7%
10	公益事業	1.1%
11	エネルギー	0.9%

バンガード・パシフィック・エックスジャパン・ストック・インデックス・ファンド
(インスティテューショナルプラスシェア・クラス)

9 月度の騰落率（ドル建て）は+7.4%でした。8 月末時点の組入上位 10 銘柄と組入比率、および業種別投資比率は下記の通りです。また、組入銘柄数は 107 銘柄です。

組入上位 10 銘柄と投資比率（上位 10 銘柄の合計：45.3%）

	銘柄名	業種	組入比率
1	Commonwealth Bank of Australia	金融	8.4%
2	BHP Group Ltd.	素材	7.4%
3	CSL Ltd.	ヘルスケア	5.3%
4	National Australia Bank Ltd.	金融	4.2%
5	AIA Group Ltd.	金融	4.2%
6	Westpac Banking Corp.	金融	3.9%
7	ANZ Group Holdings Ltd.	金融	3.3%
8	Wesfarmers Ltd.	一般消費財・サービス	2.9%
9	DBS Group Holdings Ltd.	金融	2.9%
10	Macquarie Group Ltd.	金融	2.8%

業種別投資比率

	業種	組入比率
1	金融	40.4%
2	素材	13.2%
3	不動産	8.5%
4	資本財・サービス	8.3%
5	ヘルスケア	7.8%
6	一般消費財・サービス	5.4%
7	コミュニケーション・サービス	4.8%
8	生活必需品	3.7%
9	公益事業	3.6%
10	エネルギー	2.9%
11	情報技術	1.4%

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

バンガード・エマーGING・マーケット・ストック・インデックス・ファンド
(インスティテューショナルプラスシェア・クラス)

9 月度の騰落率（ドル建て）は+6.6%でした。8 月末時点の組入上位 10 銘柄と組入比率、および業種別投資比率は下記の通りです。また、組入銘柄数は 1316 銘柄です。

組入上位 10 銘柄と投資比率（上位 10 銘柄の合計：25.6%）

	銘柄名	業種	組入比率
1	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	情報技術	9.3%
2	Tencent Holdings Ltd.	コミュニケーション・サービス	4.1%
3	Samusung Electronics Co. Ltd.	情報技術	3.9%
4	Alibaba Group Holding Ltd.	一般消費財・サービス	2.1%
5	Reliance Industries Ltd.	エネルギー	1.4%
6	Infosys Ltd.	情報技術	1.0%
7	Meituan	一般消費財・サービス	1.0%
8	ICICI Bank Ltd.	金融	1.0%
9	Hon Hai Precision Industry Co. Ltd.	情報技術	0.9%
10	SK Hynix Inc.	情報技術	0.9%

業種別投資比率

	業種	組入比率
1	情報技術	24.2%
2	金融	22.6%
3	一般消費財・サービス	12.2%
4	コミュニケーション・サービス	9.0%
5	資本財・サービス	6.8%
6	素材	6.7%
7	エネルギー	5.2%
8	生活必需品	5.2%
9	ヘルスケア	3.6%
10	公益事業	3.0%
11	不動産	1.5%

バンガード・US・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
(インスティテューショナルプラスシェア・クラス)

9 月度の騰落率（ドル建て）は+1.2%でした。8 月末時点の満期利回りと平均デュレーションは下記の通りです。

満期利回り、平均デュレーション

満期利回り	3.97%
平均デュレーション	6.0年

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
(インスティテューショナルプラスシェア・クラス)

9 月度の騰落率（ユーロ建て）は+1.3%でした。8 月末時点の満期利回り、平均デュレーション、および国別投資比率は下記の通りです。

満期利回り、平均デュレーション

満期利回り	2.84%
平均デュレーション	7.2年

国別投資比率（上位 10 か国）

	国名	比率(%)
1	フランス	24.1%
2	ドイツ	23.7%
3	イタリア	18.6%
4	スペイン	12.7%
5	オランダ	4.9%
6	ベルギー	4.8%
7	オーストリア	3.4%
8	ポルトガル	1.7%
9	フィンランド	1.6%
10	アイルランド	1.4%

バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
(インスティテューショナルプラスシェア・クラス)

9 月度の騰落率（円建て）は+0.4%でした。8 月末時点の満期利回り、平均デュレーションは下記の通りです。

満期利回り、平均デュレーション

満期利回り	1.16%
平均デュレーション	11.2年

満期利回りについて：途中償還が行われる可能性がある債券が含まれている場合は、最低利回りを表示しています。
出所：Vanguard

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

■ファンドの目的

主として、投資信託証券（投資対象ファンド）を中心に投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

■ファンドの特色

① 資産配分比率は株式 50%、債券 50%

原則として、投資対象ファンドを通じて株式と債券へ半分ずつ投資することにより、リスクを抑えながら安定したリターンを獲得を目指します。

② 国際分散投資

インデックスファンドへの投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資します。投資対象ファンドへの配分比率は、各地域の株式および債券市場の時価総額（規模）を勘案して決定します。また、配分比率は適宜見直しを行います。

③ 低コストのインデックスファンドに投資

ローコスト・ハイクオリティ運用で定評のあるバンガードのインデックスファンドの中から、資産規模、運用実績、コストなどの面から厳選したファンドに投資を行います。

④ 原則として、為替ヘッジは行いません

※資金動向、市場動向に急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記のような運用ができない場合があります。

■投資対象ファンドについて

- ① バンガード・500・インデックス・ファンド
ファンドの目的：S&P500 インデックスに連動する運用成果を目指します。
- ② バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド
ファンドの目的：MSCI ヨーロッパ・インデックスに連動する運用成果を目指します。
- ③ バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド
ファンドの目的：MSCI ジャパン・インデックスに連動する運用成果を目指します。
- ④ バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド
ファンドの目的：MSCI パシフィック・エクスジャパン・インデックスに連動する運用成果を目指します。
- ⑤ バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド
ファンドの目的：MSCI エマージング・マーケット・インデックスに連動する運用成果を目指します。
- ⑥ バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
ファンドの目的：ブルームバーグ米国政府債浮動調整インデックス（米国債および米国政府機関債（米ドル建て・残存期間1年超）の時価総額加重インデックス）に連動する運用成果を目指します。
- ⑦ バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
ファンドの目的：ブルームバーグ・ユーロ政府債浮動調整インデックス（ユーロ圏各国の発行する国債および政府機関債（ユーロ建て・残存期間1年超）の時価総額加重インデックス）に連動する運用成果を目指します。
- ⑧ バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
ファンドの目的：ブルームバーグ日本政府債浮動調整インデックス（日本政府および政府機関が発行する投資適格債券（円建て・残存期間1年超）の時価総額加重インデックス）に連動する運用成果を目指します。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

■お申込みメモ

- 購入単位：販売会社が定める単位とします。
- 購入価額：購入申込受付日の翌々営業日の基準価額
- 換金単位：1口単位 ※販売会社により1円単位でのお申込みと場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
- 換金価額：換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
- 換金代金：原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社において支払います。
- 購入・換金申込日：原則毎営業日に申込みを受付けますが、当ファンドが関連する海外の証券取引所および銀行の休業日は申込みの受付は行いません。詳細は目論見書にてご確認ください。
- 換金制限：信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求については制限を設ける場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
- 申込締切時間：原則として、午後3時までに受付けた申込み（当該申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したもの）を当日の申込みとします。
- 信託期間：無期限（設定日：2007年3月15日）
- 繰上償還：以下の場合には、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、ファンドを償還することがあります。
 - ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合。
 - ・信託期間中において、ファンドを償還させることが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき。
 このほか、監督官庁よりファンドの償還の命令を受けたとき、委託会社の登録の取消・解散・業務廃止のときは、原則としてファンドを償還させます。
- 決算日：毎年12月10日（休業日の場合は翌営業日）
- 収益分配：毎決算時（毎年12月10日の年1回。休業日の場合はその翌営業日。）に収益分配方針に基づき分配を行います。
 - ・委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
 - ・当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、所得税、復興特別所得税および地方税を控除した後、再投資されます。
- 課税関係：課税上は、株式投資信託として取り扱われます。益金不算入制度、配当控除の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。当ファンドはNISAの成長投資枠（特定非課税管理勘定）およびつみたて投資枠（特定累積投資勘定）の対象です。
※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。税法等が改正された場合には、上記内容が変更になる場合があります。

■当ファンドに係るリスクについて

◆基準価額の変動要因

当社の運用、販売するファンド（以下、当ファンド）は、ファンド・オブ・ファンズであり、主として投資信託証券に投資を行います。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」や「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」などがあります。したがって、**投資元本は保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものではありません。**また、基準価額の下落により投資元本を割り込むことがあります。運用による損益は、すべてお客さまに帰属します。

◆その他のご留意点

投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構、貯金保険機構、および保険契約者保護機構の保護対象ではありません。加えて証券会社を通じて購入していない場合には、投資者保護基金の対象となりません。お取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。投資信託の設定・運用は委託会社がおこないます。

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

■当ファンドに係る費用について

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料：ありません。
- 信託財産留保額：換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に 0.1% の率を乗じた額が控除されます。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用：ファンドの日々の純資産総額に年 0.495% (税抜 年 0.45%) の率を乗じて得た額とします。その他投資対象である投資信託証券において信託報酬がかかります。当該信託報酬も間接的にお客さまにご負担いただく費用となりますので、実質的な信託報酬は、年 0.56%±0.02%程度 (税込) となります。※ファンドが投資対象とする投資信託証券における信託報酬を加味した実質的な負担額の概算値です。各投資信託証券への投資比率、各投資信託証券の運用管理費用の料率の変更等により変動します。
- その他費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 (有価証券の売買の際に発生する手数料や、有価証券の保管に要する費用等を含む)、監査報酬 (消費税含む)、立替金の利息等が信託財産の中から差し引かれます。なお、当該その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に計算方法、上限額等を示すことができません。

ダウ・ジョーンズ工業株価平均、S&P500、S&P/ASX200 指数は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス (S&P DJI) の商品です。これらの指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、S&P DJI に帰属します。

S&P DJI は当指数等の情報に関し、その正確性・妥当性・完全性あるいは入手可能性を保証しません。また、S&P DJI は当指数等の情報の誤り、欠落についてその理由のいかんにかかわらず責任を負いません。また当指数等の使用による結果に対しても責任を負うものではありません。S&P DJI は当指数等の商品性あるいはその使用または特定の目的に対する適合性を含みますが、それに限定されるわけではなく、一切の明示的あるいは黙示的な保証を否認します。S&P DJI はファンドの受益者や他の人物等による当指数等の使用に関連したいかなる間接的、直接的な、特別なあるいは派生的な損害、費用、訴訟費用あるいは損失 (収入の損失、利益の損失、機会費用を含む) について一切の責任を負いません。

MSCI Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また、MSCI は指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

本文中のデータは、Bloomberg から取得しています。

「Bloomberg®」は、Bloomberg Finance L.P.、および同インデックスの管理者である Bloomberg Index Services Limited (以下「BISL」) をはじめとする関連会社 (以下、総称して「ブルームバーグ」) のサービスマークです。

ブルームバーグは、ブルームバーグ指数に対する一切の専有権利を有しています。ブルームバーグは、このマテリアルを承認もしくは支持するものではなく、また、このマテリアルに含まれるいかなる情報の正確性もしくは完全性についても保証するものではなく、明示黙示を問わず、このマテリアルから得られる結果に関していかなる保証も行わず、また、法律上認められる最大限度において、ブルームバーグはこのマテリアルに関して生じるいかなる侵害または損害についても何らの責任も債務も負いません。

商号：セゾン投信株式会社 (設定・運用・販売を行います)

金融商品取引業者：関東財務局長 (金商) 第 349 号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会

お客さま窓口：03-3988-8668

営業時間 9：00～17：00 (土日祝日、年末年始を除く)

<https://www.saison-am.co.jp/>

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書 (交付目論見書) に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。